

G 空間プラットフォームにおける リアルタイム情報の利活用技術に関する研究開発

地理空間情報の整備・更新、公開、流通の促進の観点から、官民が保有する地理空間関連データの共有・提供等、地理空間関連データを円滑に組み合わせて利活用するために必要となる機能の開発・実証を実施。

1 施策の概要

- (1) 地理空間情報（G空間情報）は、他の情報と組み合わせて多種多様なサービスを提供するための基盤であるが、データの保有主体が多岐にわたっていること等から、データの二次利用が円滑に進んでいない。
- (2) 世界最先端 IT 国家創造宣言（平成 25 年 6 月閣議決定）では、「どこからでもアクセス可能となるオープンなプラットフォームを通じて、信頼性の高い公共データ（例：地理空間情報（G 空間情報）、・・・等）が提供され、民間や個人が保有するデータ（例：地理空間情報（G 空間情報）、・・・等）と自由に組み合わせて利活用でき、新産業・新サービスが創出される社会を実現する。」とされている。
- (3) 上記を踏まえ、官民が保有する G 空間情報を自由に組み合わせて利活用できる「G 空間プラットフォーム」に必要となる機能を開発する。具体的には、散在する G 空間情報を円滑に利活用（検索・入手等）するために必要となる機能の開発・実証、時々刻々と変化する大規模な G 空間情報をリアルタイムに利活用するために必要な技術の研究開発等を実施する。

2 イメージ図

